

未来そうぞう科学習指導案

1年1組 岩崎 千佳

1. 単元名「 ひめちゃん ハッピーメイキング 」

(主に広く社会や環境にアプローチする内容)

2. 研究主題との関連

未来を「そうぞう」する子どもを育成するためのカリキュラム開発

(1) 単元について

本単元は、未来そうぞう科のC領域（広く社会や自然を対象とする内容）の中の、動物を飼育することをテーマとした活動である。本単元では、子どもたちが動物との関わる中で、人間とは違う動物の立場に立って物事を考えたり、自分たちで責任をもって世話をしたりするという経験を通して、日常なかなか関わることのできない動物と過ごす環境について考えたり、動物の飼育を通して自然について考えたりする中で、3つの実践力を育んでいくことをめざす。

子どもたちは、1学期の対面式で、2年生から白い柵をプレゼントしてもらった。この柵をどう使いたいかを話し合ったところ、「何か動物を飼いたい！」ということで、「飼いたい動物を考えよう」という単元がスタートした。この時点では、ぞう、きりん、ツキノワグマ、ぞうがめなど、現実的に飼えるかどうかではなく、ただ自分自身の「飼いたい」という想いで、飼いたい理由、おすすめの点などを話し合った。次の単元では、「飼えそうな動物を考えよう」の単元で、実際に飼える動物をしばっていった。この単元では、「ツキノワグマは危険動物に指定されているから飼えないらしい。」「ゾウガメは200年生きる。誰が世話できるのかな。」など、自分たちの過ごす環境や条件と照らし合わせながら調べ、話し合い、飼育可能な動物を厳選していった。その中で、学年3クラスとも一致したものが、「ミニチュアホース」であった。そこで、「ミニチュアホースを迎える準備を進めよう」の単元で、実際に飼うために必要な小屋、育てる場所、準備物、世話の内容などを考える学習を進めた。秋の遠足も「天王寺動物園」を行き先とし、飼育員さんに質問したり、動物を飼うためにどのような工夫がされているかという視点で見学した。その後12月にミニチュアホースのヒメがやってきて、「かわいい」「もっと触りたい」「思ったより大きくてこわい」など、子どもは様々なことを感じている。関わる中で、よかれと思ってしたことでも顔を背けられたり、急にジャンプをし始めたけれども原因がわからなかったり、なかなかヒメの感情が読めず戸惑う姿も多く見られる。もっとヒメと仲良くなりたいと自ら近づける子もいれば、そう思いながらも不安と戸惑いで一步踏み出せずにいる子もいる。

そこで、子どもたちとヒメとの距離を縮め、仲良く関わられるように「ハッピープロジェクト」を行うこととした。本学年では、「ハッピーメイキング」をテーマに、これまでみんながハッピーになるような活動をいろいろと行ってきた。今回も、ヒメも子どもたちもハッピーに、そしてヒメを飼うまでにお世話になった人々もハッピーを届けられるように活動を計画する。本単元では、その中の小単元「ハッピーホームプレゼント」に取り組む。新しく小屋が建って、柵の中をどのように整えてあげるとヒメはハッピーなのか考えながら住む空間をアレンジしていく。ヒメの気持ちを見て感じとれなくても、じっくり観察することでわかることもある。立場の違う生き物を相手に、どのように寄り添い関わっていくかを考えることで、3つの実践力を育んでいきたい。

(2) 単元の目標

【主体的実践力】	・ミニチュアホースにとっての快適な住まいに関心をもって進んで観察し、それをいかして課題解決に向けた活動をすることができる。
【協働的実践力】	・ミニチュアホースの住まいが、より快適なものになるように、友だちと考えを出し合って活動することができる。
【創造的実践力】	・ミニチュアホースにとってより快適な住まいにするために、これまでの経験をいかして自分なりに工夫し、考えたり活動したりすることができる。

(3) 活動構成の仮説

○ミニチュアホースと直接関わる中で継続的にじっくり観察することで、相手の立場に立って思いや考えに迫ることができ、創造的実践力を育むことにもつながる。

自分と違う立場の生き物を理解しようとする時、なんとなくではなく、そう考える基となる情報やそれを分析する知識が必要である。今回は、子どもたちが考えた住まいで過ごすヒメを1日録画し行動を観察する。その中で、よりよいものにする新たなアイデアが生まれてくるのではと考える。

3. 指導計画（全10時間 本時 7時間目）

学びの過程	学習活動	子どもの意識		教師の役割	評価		
					主	協	創
現状把握的 想像	<p>1、新しく建った小屋を見て、ヒメの住まいをよりよいものにするために、してあげたいことを出し合う。</p> <p>2、出し合った意見の中から、ヒメにとってのより快適な住まいをつくるために必要なことは何か、理由と共に出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでにヒメを観察しにいった時の出来事から 今までにヒメの日常を録画したものを観て気づいたことから <p>3、より快適な住まいにするためにグループに分けて準備を進め、実行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> えさの置く場所を奥に変え入れ物を大きめにしよう。 木の根元によくふんをしていたので、木の付近をふんする場所にする。 小屋の中に糞をふかふかにしてあげる。 <p>4、リニューアルした住まいで過ごすヒメを録画した映像を見て、自分たちのした工夫について見直す。（本時）</p> <p>5、見直しをもとに、より快適な住まいにするために必要なことに向け活動を進める。</p> <p>6、完成した住まいにヒメをお引越しする。活動を振り返り、必要なことをまとめる。</p>	<p>これでは、よこから雨が入ってきてしまうのでこまったな。なんとかしないとかぜをひいてしまうよ。</p>	<p>もっとかわいくしたほうが、ひめちゃんはよるこんで、ハッピーになるんじゃないかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 冬休みに完成した小屋を子どもたちと見に行き、今すぐ引越し可能か考えさせる。また以前考えていた住まいの工夫についてやってみたいことを出し合うよう言葉がけをする。 	●		
課題解決的 創造		<p>でこぼこがあつてけがをってしまったらいけないので、けがをしないおうちにしないと。</p>	<p>足がていさふらんという病気になるって聞いたから、水でグチョグチョだときつといやだろうな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今までの流れと同じように、「やりたい」→「できそう」「必要」という観点で、出した意見を整理していくよう言葉がけをする。 ヒメの日々の様子をビデオで録画してipodtouchで共有しておき、考える材料となる資料を用意しておく。 	●	●	
検証的 想像		<p>ひめちゃんはいろいろな鳴き声をしているけれども、なんていっているんだろうな。</p>	<p>前足をカリカリしているのは、足がかゆいのかな。怒っているのかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 寝床づくりや看板づくりなど、やりたい内容によってグループをつくり、その中で活動をするようにしていく。 試してみたいグループは、約束事を守った上で適宜ヒメのところにいって試してよいようにする。 	●	●	●
		<p>小屋のよこにビニールのカーテンをつけたら、雨も入らないし、あたたかいしいんじゃないかな。</p>	<p>ふんをする場所を決めているみたいだから、はっぱを多くして固められるようにしたらどうだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちがより快適と考えた住まいで、ヒメがどのように過ごしているかを録画から観察することで、取り組みを振り返るようにする。 			●
		<p>ひめちゃん、用意した場所でふんをしているかな。</p>	<p>たくさんしいたおがくずのところで、ちゃんと寝てくれているのかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前回気づいた変更すべき点を早速準備し、引越しの準備を整えらてるようにする。 	●	●	●
発展提案的 創造		<p>せつかく屋根を広げただけで、関係なく屋根のないところにもいってぬれちゃっているな。</p>	<p>はっぱを置いたのはいいけれど、そうじが大変で、なんだかきたなく感じるんじゃないかな。綺麗好きなのに。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 整えた環境の住まいにヒメを引越しさせ、今回気づいたことなどを共有しておく。 	●		
現状把握的 想像		<p>この間の様子だったら、きっとひめちゃん、今の小屋よりもハッピーに過ごしてくれるんじゃないかな。よるこんでくれるかな！</p>			●		